

①テーマ

出動せよ！「NGUber Eats」～地元飲食店支援・外出困難者の食支援～

②アイデアのイメージ

問題点

- ①大学周辺で食料品を買える店が少ない地域がある。
- ②テイクアウトを始めた飲食店があるが、デジタル媒体での情報発信だけだと高齢者には届きにくい。
- ③高齢者や障がい者はテイクアウトメニューを買うことが難しい。

大学周辺の地域で、「老人には買物が遠く、住みにくい。」といった声がある。
(出典：令和元年度熱田区民アンケート)
このため、食品を買うためには遠くのスーパーまで行かなければならないが、高齢者や障がい者には難しい。
食事をデリバリーしてくれる飲食店があったとしても、**情報をデジタル媒体で発信するだけでは高齢者には届きにくい**。
情報を知ったとしても、遠くの店まで注文しに行くことは難しい。宅配サービスのない店の場合、**高齢者・障がい者はテイクアウトメニューを食べることがなかなか叶わない。**

③アイデアの特徴・メリット

- ・アイデアの特徴は、遠くへ行く足がない高齢者・障がい者向けに、**名古屋学院の学生が地域の飲食店等のテイクアウト商品をデリバリーする**というものである。
- ・学生がデリバリーをすることで、家から出られない人に食事を届けることができる。そして、高齢者や障がい者に向けてビラを配る(サービス内容・デリバリーを行っている店の宣伝)ことで、地域の飲食店のターゲット層を広げ、売上を少しでもあげることができると考える。それから、デリバリー時に学生がお客さんに関わることで、違う世代・違う境遇の人同士との交流ができ、学生は学びが増え、一人ひとりが「生きがい」や「あったかさ」を感じられる町に近づくことを狙いとしている。
- ・コロナ禍の状況にも即した取り組みとなっている(感染で重症化リスクの高い高齢者、障害者の代わりに感染で重症化リスクの低い若者が代わりに外に出る)

解決策「NGUber Eats」

学生がテイクアウトメニューをデリバリーする！



メリット

- ①高齢者・障害者の食の支援
- ②地元の飲食店(商店街)支援
- ③違う世代・境遇の人の交流
- ④熱田区唯一の大学として地域貢献→地域と共生する大学
- ⑤コロナ禍に即した方法

1番のメリットは、**コロナ禍に即した方法で高齢者・障がい者への食の支援と、地元の商店街などの飲食店の支援が同時にできる**ということである。アンケートにより飲食店側が高齢者・障がい者が求めている食をわかることで、ターゲットを広げることができる。そして、高齢者・障がい者は外に出ずに、様々な食事を楽しめる。

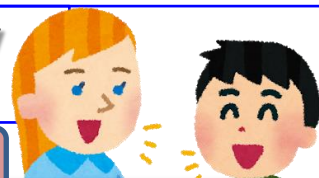
☆他に出来そうなこと

- ・**マイルポストや学食**などの本学独自の食事のデリバリーサービス
- ・食事以外のデリバリーサービス
- ・実習講義のような扱いで学びに取り入れる→「生」の学びで学生のモチベーションも上がる

コロナの感染が強く懸念される場合は玄関前に置くことで対応！

①テーマ

様々な言語で熱田の歴史講座を開催!!



②アイデアのイメージ

問題点

1. 熱田区に住む外国人で熱田の歴史について知らない人が多い。
2. 外国人と日本人との交流が少ない。
3. 実際に歴史的史跡を訪れたことのある熱田区の子どもや外国人が少ない

熱田区には外国人が多い。熱田区は熱田神宮をはじめ、様々な歴史的な史跡があるにも関わらず、熱田区に住む外国人はその歴史を知らない人が多い。その理由として、熱田区に住む外国人と歴史をよく知る高齢者との交流が少ないことがあげられる。また、熱田区には英語だけでなく、ほかの言語を話す人も多く、地域住民とのコミュニケーションが取りにくい。

解決策

様々な言語で熱田の歴史を知るため、まずは大学内の教室で講座を開き、その後名古屋学院大学周辺の歴史的私跡を見に行く。

内容

- ・ 子供から大人、外国人まで、幅広い人々を対象とする。
- ・ 歴史的史跡の説明を日本語、英語、中国語、を中心に行う。
- ・ 講座の内容は、子どもや外国人がわかりやすいように簡単なものにする
- ・ 講座が終わったら、名古屋学院大学近くの白鳥古墳や法持寺など、小さい子どもが参加しても行きやすい近くの史跡に行く
- ・ 自国文化を他国文化と比べながらゲームを交えて楽しく歴史を学ぶ

メリット

- ・ 子供たちは、外国人と交流することで言語能力習得が期待できる。
- ・ 熱田の歴史を知ることで地域愛が育まれる。
- ・ 外国人にとっては、地域住民との交流により、住みやすい場所になる。

事前に

- 多言語に対応する準備が必要。
→名古屋学院大学の学生の協力を募る
- 『熱田区の歴史的史跡マップ』を作成し、熱田の人々に配布したり、掲示板への掲示、SNSを使った宣伝を行う
→幅広い世代にイベントを知ってもらう

具体的には
どんなことを
するの？

例えば

- 熱田の歴史的史跡クイズ
- 熱田の歴史〇×ビンゴ大会
- 外国と日本の歴史の違い問題 などなど

③アイデアの特徴・メリット

この講座では、日本人と外国人が共に同じことを学び、理解を深めることで交流ができる。そこで歴史を学びながら、外国の言語習得もできる。普段あまり交流のない人々が関わることで、新しい発見がある。例えば、互いの文化の違いや外国人の方が知らない日本を知ってもらえる。また、子供もわかりやすい内容にすることで、幅広い年齢が集まることができる。クイズやビンゴなど、誰でも楽しめる簡単なゲームをみんなで行うことで、一体感を生むことができる。ゲームのやり方、場所、人数などを配慮すれば、今のコロナ禍の中でも開催できる見込みはあるだろう。そして、小さい頃に様々な国の人々に関わることは、子供たちにとって貴重な経験になるに違いない。講座を開催する前に熱田区の歴史的史跡の場所や特徴をまとめたり、クイズを掲載した冊子の配布や、SNSを使った宣伝も行い、幅広い世代に知ってもらう。

提出者

外国語

学部

担当 有菌智美 先生

学籍番号／氏名

①テーマ

災害時の避難場所に遊びに行こう！

②アイデアのイメージ

- 熱田区観光所 -
- ・熱田神宮(神宮)
- ・白鳥庭園(西町)
- ・熱田神宮宝物館(神宮) etc...

RECRUIT じゃらん観光ガイド2020年7月21日参照

しかし...

観光名所など人が集まりやすいところに広域避難場所が近くに無いところがある。

解決策

- * 広域避難場所でイベントを行うことで、場所を把握する。
- * 堅苦しい防災・避難訓練を第2の目的にすることで、イベント参加率の向上、地域活性化をねらう。

③アイデアの特徴・メリット

私自身あまり防災訓練に自主的に参加しようと思うことが無かったので、楽しめるイベントがあると参加しやすいのではと思い、「避難場所を楽しみながら知る」ことができる企画を提案しました。参加者を増やし、避難場所を知ってもらうことが目的です。楽しいイベントがあると、若い世代のイベント参加率が上がり、地域交流の場となるため顔見知りが増え、熱田区の課題である”治安の向上”にも繋がるのではないかと考えました。この企画は、外出時の災害を想定した内容にしました。

《熱田区の問題点と対策》

「熱田区区民アンケート」より、区役所が力を入れるべきことに治安の向上・防災対策が上位にランクインしていた。防災対策を中心に課題解決策を提案する。

熱田区で集客数の多い 名古屋市:令和元年度「熱田区区民アンケート」実施結果(熱田区)
イオンモール熱田(六野) www.city.nagoya.jp/atsuta/page 2020年7月21日参照

熱田区の広域避難場所

- ・白鳥公園(熱田西町)
- ・名古屋国際会議場(熱田西町)
- ・神宮東公園(六野)
- ・熱田高校(千年)
- ・熱田神宮公園(旗屋町)
- ・熱田神宮(神宮)

広域避難場所とは？

大災害など、大規模な避難が必要な場合でも安全なある程度の広さを有した避難場所です。

避難所の種類 | 平時から災害に備えよう！防災考察
bousaishi.info 防災 2020年7月21日 参照

企画内容

広域避難場所を回る スタンプラリー

熱田区にある広域避難場所6か所を回り、それぞれで行われているイベントにも参加していただく企画です。全て回ることが出来た人には、熱田区限定の特産品をプレゼントします。また、各避難場所でのイベントは、災害時に役立つ知識を学べるブースの設置、子どもが楽しく遊べる企画を開催します。

【3つのメリット】

1. 避難場所が良く分かる！
2. イベントがあることで、参加率が上がる！
3. 地域交流、地域活性化による治安向上！